

津山工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	日本語Ⅲ
科目基礎情報				
科目番号	0067	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	総合理工学科(情報システム系)	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	3	
教科書/教材	『大学・大学院 留学生の日本語 作文編』, 『大学・大学院 留学生の日本語 読解編』, 『大学・大学院 留学生の日本語 論文読解編』, 『大学・大学院 留学生の日本語 漢字語彙編』その他, 教員が適宜準備し配布する。			
担当教員	山田 朱美, 前澤 孝信			
到達目標				
"学習目的: 留学目的の達成に必要な日本語の習得				
到達目標 1. 専門書、論文、レポート、レジュメ等の読解、作成に必要な各分野に共通する漢字語彙500字の習得（漢字語彙） 2. 専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読み、理解することができる（読解） 3. 日本語で情報収集し、論理的な文章を書くことができる（記述、筆記） 4. 日本語でプレゼンやディスカッションができる（論理的発話） 5. 高専生活を送るために必要な日本語を運用することができる（会話、コミュニケーション力）				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	漢字、語彙500字を習得している	漢字、語彙400字を習得している	漢字、語彙300字を習得している	左記に達していない。
評価項目2	専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読み、理解することができる（読解）	専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読み、おおむね理解することができる（読解）	専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読み、半ば以上理解することができる（読解）	左記に達していない。
評価項目3	適切な語彙や文法を用い、論理的な文章を書くことができる	書き言葉としては不適当な語彙や文法はあっても、論理的な文章を書くことができる	適切な語彙や文法は足りないが、論理的な文章を書くことができる	左記に達していない。
評価項目4	適切な語彙や文法で、プレゼンやディスカッションができる（論理的発話）	不適当な語彙や文法はみられるが、でプレゼンやディスカッションができる（論理的発話）	適切な語彙や文法は足りないが、でプレゼンやディスカッションができる（論理的発話）	先に達していない。
評価項目5	適切な語彙や文法をできるだけ用い、積極的にコミュニケーションがとれる	語彙や文法には少し難があるが、積極的にコミュニケーションがとれる	語彙や文法に不十分な部分があるが、積極的にコミュニケーションがとれる	周囲の日本人と積極的に関わろうとしない
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：日本語 基礎となる学問分野：人文学／文学・言語学 学習教育目標との関連：本科目は総合理工科学科学習教育目標「⑤グローバルな視点と社会性の養成」及び「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 授業の概要：高等教育機関で自律した学習者となるために必要な日本語読解力・作文力を向上させるため、さまざまな日本語で書かれた日本語の文章を読み、身近な話題について作文を書く。同時に、日本での生活に必要な会話力・聴解力を伸ばすためにディベートやスピーチなども行う。			
授業の進め方・方法	授業の方法：教科書にそって授業を進めていくが、その他の副教材（問題集や新聞・インターネットの記事）を適宜用いて、受講生の知識と運用能力の定着を図る。トピックについて調べ、自分の考えをまとめ、それを発表したり、意見交換を行う時間も設ける。アウトプットの訓練を重ねていくことで、今後必要とされる日本語でのプレゼンテーションの能力も養っていく。また、日本語上級者に求められる漢字力・語彙力を養うために、『留学生の日本語 漢字・語彙編』を使い、漢字学習も進めていく。受講生がさらに日本語能力に磨きをかけることができるよう努めていくが、受講生自身にも日々日本語や日本文化に興味を持ち、授業に臨んでもらいたい。 成績評価方法： ・成績は、定期試験（70%）+漢字の小テスト（10%）+課題提出物（10%）+出席状況・学習態度（10%）の合計から評価する。 ・60点以上を合格とし、必要に応じて再試験を実施する。			
注意点	履修上の注意：本科目は3学年の課程修了の為に履修（欠席時間数が所定授業時間数の3分の1以下）が必須である。 履修のアドバイス：事前に日本語能力試験（JLPT）N2レベルに達していることが望ましい。学習内容が多いため、受講生には日々予習・復習を行い、学習の取りこぼしがないように努められたい。受講生が日本語や日本文化に興味を持てるような教学、情報提供に努めていくが、受講生自身にも日々日本語や日本文化に興味を持ち、授業に臨んでもらいたい。 基礎科目：日本語Ⅰ（1年）、日本語作文（1）、日本語会話と聴解Ⅰ（1）、日本事情（1）、日本語Ⅱ（2）、日本語会話と聴解Ⅱ（2）、その他母国で受けた留学前事前研修など 関連科目：理科用語（留学生3年） 受講上のアドバイス： ・授業開始時刻に遅れた場合、20分までは遅刻、それ以降は欠課として扱う。 ・積極的に授業に参加し、課題は期限を守って提出すること。 ・毎週、漢字の小テストを実施するため、受講生は『留学生の日本語 漢字・語彙編』の指定された範囲を復習してくること。 ・受講生の状況によって、テキストや授業内容を変更する可能性がある。			
授業の属性・履修上の区分				

☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
必修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	論文読解 1 漢字 1	作文 1	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		2週	論文読解 2 漢字 2	作文 2	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		3週	論文読解 3 漢字 3	作文 3	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		4週	論文読解 4 漢字 4	作文 4	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		5週	論文読解 5 漢字 5	作文 5	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		6週	論文読解 6 漢字 6	作文 6	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		7週	論文読解 7 漢字 7	作文 7	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		8週	(前期中間試験)				
	2ndQ	9週	中間試験の返却とフィードバック		これまで学んだことをきちんと理解できているか振り返る。		
		10週	論文読解 8 漢字 8	作文 8	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		11週	論文読解 9 漢字 9	作文 9	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		12週	論文読解 10 10 漢字 10	作文	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		13週	前期口頭発表準備 (テーマ発表)		これまで学んだことを応用することができる。		
		14週	前期口頭発表 (テーマ発表)		これまで学んだことを応用することができる。		
		15週	(前期期末試験)				
		16週	前期末試験の返却と解答解説		これまで学んだことをきちんと理解し、応用することができる。		
後期	3rdQ	1週	論文読解 11 11 漢字 11	作文	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		2週	論文読解 12 12 漢字 12	作文	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		3週	論文読解 13 13 漢字 13	作文	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		4週	論文読解 14 14 漢字 14	作文	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		5週	論文読解 15 15 漢字 15	作文	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		6週	論文作成 1 16	漢字	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		7週	論文作成 2 17	漢字	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		8週	(後期中間試験)				
	4thQ	9週	中間試験の返却とフィードバック		これまで学んだことをきちんと理解できているか振り返る。		
		10週	論文作成 3 18	漢字	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		11週	論文作成 4 19	漢字	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		12週	論文作成 5 20	漢字	・ 内容について理解し、日本語で文章の要点や言葉の意味を説明することができる。 ・ 学んだ文法を用いて文章を作成することができる。		
		13週	後期口頭発表準備 (専門に関する発表)		これまで学んだことを応用することができる。		
		14週	後期口頭発表 (専門に関する発表)		これまで学んだことを応用することができる。		
		15週	(後期期末試験)				

		16週	後期末試験の答案返却と試験解説			これまで学んだことをきちんと理解し，応用することができる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	漢字の小テスト	課題	授業態度・出席状況	その他	合計
総合評価割合	50	30	10	10	0	0	100
基礎的能力	50	30	10	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0